

どのように進めていくのか

地域ごとに詳細な計画を策定



さかもと 坂本 あや 議員

答 大西町長

一般国道大方改良事業は、入野本村地区を中心に用地買収に入っている。来年度から芝地区でも一部工事に着手をする予定になっている。

問 佐賀文教地区の避難道の要望とはどのようなものか。

答 大西町長

避難道の確保は喫緊の課題であり、園児、児童生徒及び地域住民が活用できる避難道の構想を描き、昨年11月8日に直接大臣室で要望した。

問 国道改良事業と避難道整備を関連させた入野地区の減災対策は。

土佐くろしお鉄道の両町踏切付近から、新庁舎の建設予定地へ至るルートは、現国道と交差部分を極力立体交差とする計画を基本にして、津波来襲時に交通弱者の方が一刻も早く高い場所に避難できるように、車避難を想定した道路

構造を検討中。

東の早咲地区は、タバコ乾燥場へ向かう避難路、町道下風深線の道路拡幅改良をする計画。現在、測量に入り地権者の方々や地区役員の協力も得て、業務を進めている。早

咲地区の避難路が完成すれば、東部とそして中央からの循環型の道路が出来るようになる。

浜の宮地区の、大方中学校に向かう町道田畑線業務を発注している。地権者の方々は、用地の相談をしている。ソフト面では、各集落の各班別に落とし込んだワークショップを300回位になると

思うが、平成25年の2月から26年の1月にかけて実施したい。実施する地域対象は、津波浸水危険区域40カ所、40集落。

- ワークショップの目的は、
- ① 防災に対する啓発事業
 - ② 避難方法、避難をどのようにするか、車の避難など含め詳細な地域のルールを作る必要がある。
 - ③ 防災隣組。事が起ったときに最も頼りになる身近に住ん

でいる方、声が届く範囲の班単位が最も有効と考えており、防災意識の効用を高めるため。④ 事業を入れることによる雇用対策。

問 庁舎の移転先の諸調査結果を含め、移転時期はいつごろを考えているか。

答 大西町長

庁舎の移転は住民の利便性等を幅広く考え、通称スケン谷を選定させていただいた。

その他の質問

※ 産業振興を問う。

用地測量と造成設計の予算を議決いただいたので造成設計に進んでいる。造成をするに当たり、高台なので住民の利用しやすい造成工法やアプローチする道路の勾配等を検討している。

また、用地造成をする場合に、切り土の量等勘案しているが、詳細な設計には至っていない。28年度完成を目指して取り組んでいく。



佐賀文教地区での避難訓練